

# 共生力

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>  
Tel: 03-3222-4190 Fax: 03-3222-4199  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-9 第2太陽ビル 301  
発行人: 黒田文男

## この輝き！ この未来！

### 教育交流に新時代…第15次訪中団の成果



河北省易県西陵中心小学校での6年生の音楽授業 10月13日

公益財団法人日本中国国際教育交流協会主催第15次訪中団（中山正和団長以下23名）は10月10-16日の日程で、北京、河北省易県を訪問しました。北京では中国教育国際交流協会と共に教育交流集会を開催。易県では、西陵中心小学校で授業の交流、易県第四小学校では支援した椅子と机の使用状況の視察を行いました。

西陵中心小学校では、授業参観の後、枝松かおり団員（三重）の指導による6年生の音楽の授業が、ピアノと寄贈した電子キーボードが設置されている音楽室で行われました。50名の子どもたちは、釣りに使用するような小さなパイプ椅子に姿勢を正して座り、待っていました。

授業はまず4つのグループに分け、音の各パートを发声練習し、続いてハーモニーで耳を慣らすことから始まりました。こうした方法は子どもたちにとってはもちろん初めてでした。「幸せなら手をたたこう」「草原情歌」と授業が進行するにつれ、子どもたちの目の輝きは増すばかり。途中からピアノ伴奏に大森輝男団員（神奈川）も加わり、導入の段階から、団員全員が子どもたちの中に入る姿は、教師ばかりではなく、易県教育行政関係者、宋慶齡基金会のスタッフにも大きな驚きと感動を与え、教室は一つの暖かい空間となりました。

団員の感想を紹介しましょう。「枝松先生の指導できらきら目を輝かせていた子どもたちの顔、こんなに情熱が

不安なときなのに、温かく迎え入れていただいた中国の方々の笑顔が、忘れられません。」



おやつを買いに売店にきた6年生

の大部分は校舎や校庭から出てきません。帰宅のために迎えに来る家庭は一部分で、多くは併設の寮に帰るのだそうです。中には、農民工として両親が北京へ出稼ぎにいってしまうため寮にいる子もいると聞きました。

とにかく人なつこくて、その場でいくつもの大きな輪ができ、サイン会をしたり、遊びを始めたり、身振り手振りで会話をしたり、もう大変な騒ぎです。子どもたちの笑顔を一つでも多く増やすために、私たちの支援は進めていかなければならぬと、いまさらながら思いを新たにしました。

夕食交流会には、12名の現地の小・中の先生方が参加され、熱情溢れる活発な交流を行いました。

また、学校訪問に先駆けて易县政府を表敬訪問しました。席上、趙春生副県長は、協会が易県の教育事業をサポートしていただいていることに心から感謝します。椅子をはじめ教具の支援はたいへん有難い。今後とも交流とコミュニケーションを強めたい、と歓迎の言葉を述べました。

### ★宋慶齡基金会を表敬訪問★



表敬訪問で自己紹介をする第15次訪中団団員（宋慶齡故居内）

10月15日、訪中団は宋慶齡故居において、宋慶齡基金会を表敬訪問しました。基金会からは常栄軍常務副主席、李希奎副秘書長、宋慶齡故居艾玲主任、陳愛民連絡部長、劉穎連絡部処長が同席しました。双方は公益団体としての共通点を大切にして、活動を広げていこうという点で一致しました。協会は、来年度を迎える20周年を機に、第二次宋慶齡基金会教育代表団を招聘したい、団員には易県の音楽教師を含めて欲しいと要請しました。基金会は、協会の提案を快諾しました。

# 日中教育交流会で理解を深める

加藤氏・教員定数の改善が急務

田氏・人的資源の多い国から人的競争力の強い国へ

高氏・出稼ぎ者や農民の子ども問題に課題



教育交流会での様子(中国教育国際交流協会逸夫会館)

10月12日、公益財団法人日本中国国際教育交流協会と中国教育国際交流協会共催による「日中教育交流会」が開催されました。

司会には、吉田一徳秘書長と孫家寧副主任があたりました。挨拶に立った林佐平常務理事は「相互理解を強化することを通じ、教育改革における経験を学び、それぞれの教育の更なる改革と一層の発展に寄与することになります。中国には、「他山の石以て玉を攻（おさ）むべし」ということわざがありますが、共通する課題に直面している両国の教育関係者はお互いに学び合うところがたくさんあると思います。」と述べました。

続いて山中団長が、「国際化の時代にあっては、文化・教育の面でも新しい思考が必要とされているという点では、一致している。」と両協会の共通点を述べ、東アジアの大先達である中国の鄭和の例を引き合いに出し、「心の鎖国を解き放とう。」と述べました。

報告は日本側から加藤良輔氏（副団長・協会理事・神奈川県教職員組合執行委員長）、中国側からは中央教育科学研究所研究員の高峠氏、田輝両氏が行いました。

両氏は2006年第13次訪中の教育交流会の際も報告された日本教育の専門家でもあります。

加藤氏は、『現代日本の教育事情』と題して、①子どもの生活に影を落とす経済状況、②進む多忙化、疲弊する教職員、③学習内容の見直し、④「教育免許更新制度」の問題、⑤教員定数の改善が急務である諸点を挙げ、中でも教員定数の改善は、職場の多忙化への施策として、子どもを大事にする教育の推進の大変重要な要素である、と述べました。



田氏は、『これから10年の中国教育改革』と題して、2010年7月、「国家中長期教育改革と発展企画要項」が公表されたのを受け、「教育企画要項」の目標とビジョンについて報告しました。「人的資源の多い国から人的競争力の強い国」へ発展するため、国民の資質と教養を高めることによって、経済建設を促進するのは知的戦略の一環である、と述べました。

高氏は、『中国の教育課程改革』について報告しました。1990年代のアメリカ、日本、欧州のカリキュラム改革を俯瞰した後、中国の改革の特徴として、①教科書の選択性の導入、②指導要領を要項から標準へ、③週3時間の総合実践活動、④小学3年からの外国語導入、⑤新しい科目（道徳と社会、道徳と生活、歴史と社会など）の新設等、重要な変化について述べました。また、出稼ぎ者や農民の子どもの問題、地域格差について抱えている課題の報告がありました。

報告後、質疑が行われ、日本側からは教科書が選択性になっていることへの驚きと採択の内容について、中国側からはゆとり教育が何故学力低下の原因だと判断されるのか、など活発なやりとりが交わされました。

（報告の詳細は『年会報17号』に掲載されます。）

## ★★★受入れ団体について★★★

第15次訪中の受入れ団体の簡単な紹介です。

### 中国宋慶齡基金會

宋慶齡女史は国父孫文の夫人、また宋家三姉妹（宋靄齡・宋慶齡・宋美齡蒋介石夫人）として日本でも著名な方ですが、中国にあっては国母としてその名を知らぬものはないといわれています。宋慶齡故居には、毛沢東、朱徳、周恩来に囲まれた宋慶齡の写真が展示されています。宋慶齡基金は、宋慶齡の偉業を称えて、1982年鄧小平名誉主席によって創設されました。活動内容は①世界平和、②両岸（台湾）友好、③女子、子ども、貧困者への学費補助、僻地教育などで、大変大きな規模で活動を行っています。現在の主席は胡啓立氏です。

協会は、2006年より宋慶齡基金と共同プロジェクトを発足させ、河北省易県小・中学校への机椅子の支援、電子キーボードの寄贈、2009年からは、音楽教師養成セミナーを2回にわたって実施しています。今次訪中の学校訪問、授業交流もこうした取り組みと一緒にになって行われたものです。こうしたソフト面での支援は、中国内でも高い評価を受けています。



易県副県長を表敬訪問する訪中団

### 中国教育国際交流協会

中国教育国際交流協会は国連から国際NPO法人として承認を受けています。また中国政府教育部（文科省に相当）との関係が深い教育団体です。在日中国大使館教育処にも度々派遣されています。協会とは20年来の付き合いがあり、1992年には全国優秀教師123名の訪日の実績があります。田中一郎創立理事長・会長は、協会の名誉顧問です。アジア・太平洋部の責任者である林佐平常務理事は、広島大学に留学し、文学博士号を授与されるなど、日本の教育に造詣の深い方です。今回報告された高、田両先生は、中央教育科学研究所の研究者で、中国のカリキュラム作成に関わっています。